トイレにも行かせない取り調べ

冤罪〔えんざい〕をつくって反省のない捜査機関

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

取調官　袴田〔はかまだ〕。おまえ、決心を決めて、な、男らしくどうだ？ おまえさんも。……いつまで未練がましいことを言ってるだ？ お？ やったことはやった、申し訳ないと、な。それがほんとの、おまえ、遠州男児やろ？ お？ それがほんとの日本人の男じゃないか。な。袴田。お？ 話できるだろ？

★☆★

１９６６年６月30日に起こった味噌会社専務一家殺人・放火事件の容疑者としてその年の８月18日に逮捕された袴田巌〔はかまだいわお〕さんは、静岡県警でこのような取り調べを連日受けていました。

その録音が見つかり、先月、都内で開かれた「袴田巌さんの再審無罪を求める２・25全国集会」で一部が紹介されました。

長時間の取り調べで「すいません。小便行きたいですけどね」と求める袴田さんに、取調官たちが「その前にイエスかノーか、話してみなさいって言うじゃないか」「ここでやらせばいいかな」「そこでやんなさい」と、取調室に便器を持ち込んで小便させる様子もありました。

そのような拷問を、警察・検察は、取調室の外にいる報道関係者に撮影されることを嫌った被告（袴田さん）が、便器を持って来て貰いたいと希望したので、止むなく取調室内で使用させたものである、などと言い繕ってきたのです。

この日（９月４日）の取り調べの２日後、ずっと犯行を否認していた袴田さんは「自白」に追い込まれました。勾留期限が近づくほどに、取り調べはいっそう厳しくなったことでしょう。

★☆★

集会の副題は「警察と検察の職務犯罪こそが冤罪袴田事件の本質だ」でした。２０１４年３月27日、静岡地裁が再審開始決定が出され、袴田さんが釈放されてから３年が経とうとしていますが、検察は即時抗告しているため、再審は始まってもいません。いまでも袴田さんは「死刑確定囚」のままです。再審で、捜査機関の「犯罪」に等しい重大な誤りが明らかになることをおそれているのでしょうか。

「男らしく」とは言いませんが、警察、検察こそ「人間らしく」非を認め、詫びるべきではありませんか。